

ふる里発見シリーズ第9集

掛川城の絵図



掛川藩太田家の家紋軒瓦

掛川市教育委員会



掛川城の絵図

序にかえて

ふる里発見シリーズ第9集として「掛川城の絵図」を発行することとなりました。

掛川城の歴史は文明年間（1469～87）の初め、遠江や駿河に勢力のあった今川義忠が家老の朝比奈泰熙に命じて交通の要地である掛川に城を築かせたことに始まります。

天正18年（1590）には山内一豊が城主となり10年間在城し、徳川今川両氏の攻防によって損傷の著しかった掛川城の修築や城下町の整備を行ないました。

その後、明治維新までの260年あまり、徳川氏の親藩、譜代の大名の居城とされてきました。

東海の名城とうたわれた掛川城は多くの絵図をのこしていますが、今回は市内に保存されている掛川城に関する絵図を集めてみました。

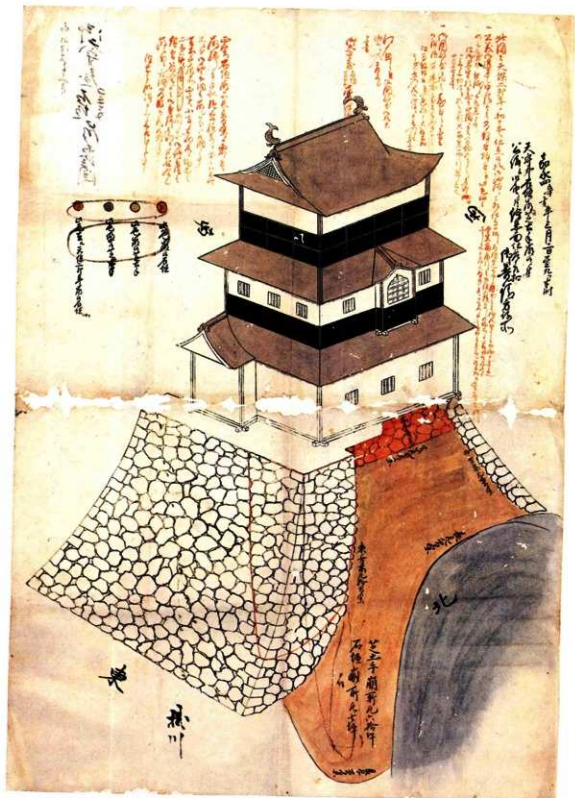
本書の刊行にあたり貴重な資料を提供していただいた関係者の方々に深く感謝申し上げますとともに、本書が郷土の歴史を学ぶ手がかりとして活用していただければ幸いに存じます。

昭和63年3月吉日

掛川市教育委員会
教育長 伊藤昌明



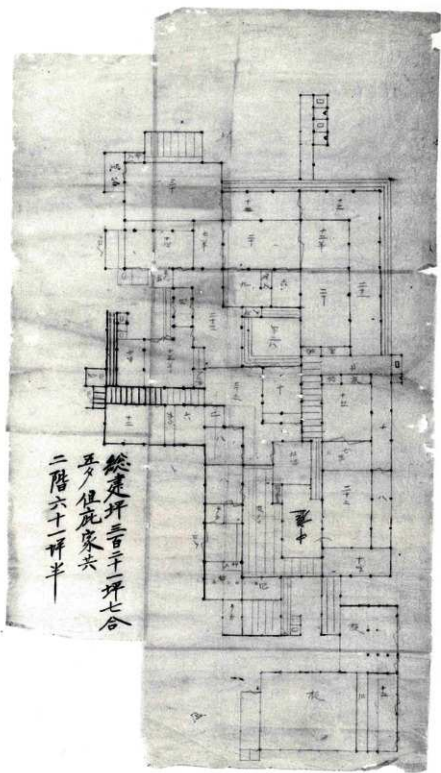
遠州国掛川城地震之節損所之覚図



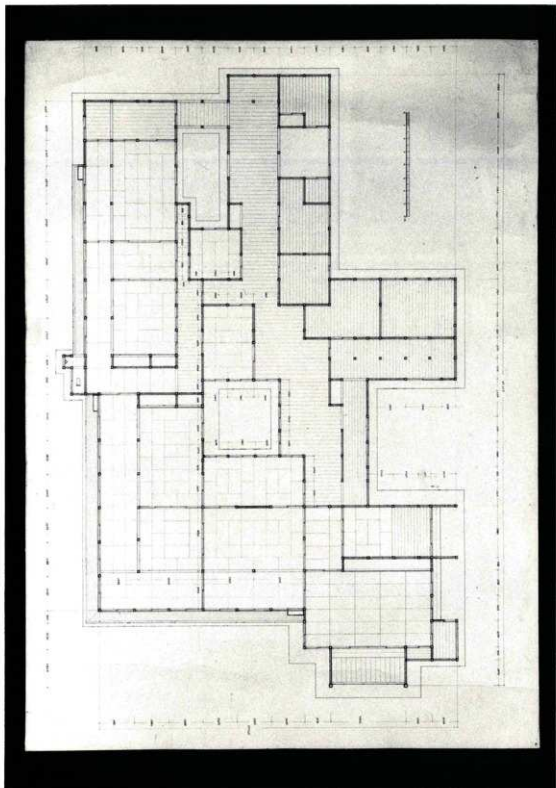
御天守臺石垣芝子園所繪圖



遠江国十二郡千六十三村圖



掛川城御殿古図



掛川城御殿竣工平面図

解 説

「遠州国掛川城地震之節損所之覚図」

江戸時代末期に発生した地震のときの城郭の被害の状況を幕府に報告するために作成された絵図の控。安政2年（1855）7月作成。

当時の掛川城の縄張りを知るうえでも史料的価値が高い。

「御天守臺石垣芝土手崩所繪図」

嘉永4年（1851）3月2日昼九ツ半（午後1時）掛川城天守台北面の石垣と芝土手が崩落した被害状況を幕府に報告した控え。当時の天守閣の様子がわかる貴重な資料。

「遠江国十二郡千六十三村図」

掛川藩家臣平川之義が、弘化3年（1846）秋7月に纂し、慶応4年（明治元年1868）秋7月に再編纂した遠江の地図。東は岡部町、西は湖西市、北は畑薙ダム付近まで描かれている。

「掛川城御殿古図」

明治4年（1871）掛川宿に下付された当時の御殿の平面図。明治初年に作成された。

「掛川城御殿竣工平面図」

昭和50年12月に修復工事が完了した掛川城御殿の竣工平面図。

掛川城御殿は、現存する城郭建築として他に例がなく貴重なことから、昭和55年に重要文化財に指定されている。





文化財愛護シンボルマーク

掛川城の絵図

昭和63年3月発行

編集
発行 掛川市教育委員会

印刷 株式会社 きょうせい

無断複写を禁ず